

特集 佐藤監督と今榮市長 竹原の魅力を語る

竹原を舞台としたアニメ「たまゆら」は、OVAが発売されて10年経過した今もなお、「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」に選定されるなど、根強い人気を誇っています。「たまゆら」と「たけはら」の繋がりが10年続いたことを祝し、「たけはらファンクラブ」のイベントとして、トークイベントをオンラインにて開催しました。制作中のお話や、ファンからの質問への回答など様々なお話をいただきましたが、竹原を舞台にされた理由など、内容を一部ご紹介します。



佐藤 順一【アニメ監督】

代表作はアニメ「たまゆら」「ARIA」「美少女戦士セーラームーン」等。監督を手掛けられ、令和2年に公開された映画「魔女見習いをさがして」は、「第75回毎日映画コンクール」でアニメーション映画賞を受賞されました。

× 今榮 敏彦【竹原市長】

●コーディネーター 堀川 大輔【竹原市観光協会副会長】

◆竹原市公式 YouTube

イベント内容をアーカイブで公開しています。ぜひご覧ください！



◆「たけはらファンクラブ」会員募集中！

竹原を好きで、応援してくださるみなさんが集うファンクラブ。入会費無料。会員限定の特典もあります！



竹原を選んだのは、竹原の人たちが「自分の町が好き」だと感じたから

●竹原を舞台に選んだ理由

堀川さん 「たまゆら」の候補地は全国に20か所以上あったとか。ファンから「なぜ竹原を舞台に？」という質問が届いています。

佐藤監督 穏やかな海や、日差しが暖かそうな町のイメージで、瀬戸内というのは決めていました。印象的な電車が走る風景や、フォトジェニックな町並みが欲しかったんです。

竹原の町並み保存地区のような、観光地に実際に人が生活しているということが面白いし、物語にも使いやすいと考えたんです。そして何より、竹原の人たちが、自分の町を好きなんですよね。

例えば、「朝日山は遠足で行くだけの山だから。」と話しながらも「道中は、お地蔵さんをつつ拝みながら行くのが面白かったですね。」と語ってくださる。それが興味深い、「もっとください！」って思うんです。町の方が楽しい思い出をたくさん持ってらっしゃる。そこがとても魅力的だと思いました。

今榮市長 確かに、「竹原は何もな

い所ですよ。」と答える方が多いんですが、「あなたの町の、ここがすごいじゃないですか！」と褒めてもらえると、「ええとこじゃろ〜。」って思わず笑顔になってしまう。

そんな竹原のみなさんの姿を見て、監督が、「竹原のみなさんは竹原のことが大好きなんだな。」って思ってくれたのだと、とても嬉しく思います。

●竹原駅前で迎える「おかえりなさい」
堀川さん 「たまゆら」では竹原駅や町並み保存地区など、実際の風景がそのまま使われているところに魅力を感じる方が多くいらっしゃいます。
今榮市長 竹原駅の「おかえりなさい」の文字は、駅のリニューアル整備の際に、当時の小坂政司市長の直筆で表現したものなんです。市職員のアイディアなんですよ。

市民のみなさんは、「よくぞこの場所を取り上げてくださった。」そんな気持ちで作品を見始めることができましたと思います。「佐藤監督、ありがとうございます。」という思いでいっぱいシーンです。



©佐藤順一・TVA/たまゆら製作委員会

▲実際にアニメで使用された竹原駅前の場面

佐藤監督 最初、取材に来て竹原駅で下車したとき、この文字を見て「あっ！！」と思って写真を撮りました。資料を調べていて、竹原駅前の「おかえりなさい」の文字が、僕が竹原を訪れる少し前に設置されたと知ったんです。主人公の「楓ちゃん」が幼い頃にはこの文字は無く、成長して竹原を訪れた時に書かれている、アニメでそう描写しました。

まるで、「たまゆら」のために「おかえりなさい」があるような感覚でした。駅にこの文字がある、それも町への愛情、利用する人たちへの気持ちだなと。ほっとしていい町だなと感じています。

トークイベントの全容は、アーカイブでご覧ください！